

1. 授業の概要(ねらい)

教育学演習は、ⅠとⅡを通期で実施します。この授業では、卒業研究・卒業論文を書くために必要な研究リテラシーを学びます。

ここでいう研究リテラシーとは、直接的には

- ・リサーチリテラシー

論文を中心に、どのように先行研究や参考資料を探し、入手し、参考にすればよいか

- ・統計リテラシー

論文を読む、書くために必要最低限の統計的知識とソフトウェアの使い方

- ・英文読解力

論文に用いられる英語は、実はかなり易しい表現しか使われていません。専門用語を別にすれば高校1年程度の文法が分かっているれば、ほぼ理解可能です。

- ・プレゼンテーション能力、ICT活用能力

効果的に情報を収集し、他者に対して、自分の考えを効果的に伝える力等々を指します。したがって、前後期を通してこれらの力を身に付けてもらいます。

2. 授業の到達目標

上記のリテラシーが身に付くこと。また、それらを通して、議論をする力・課題を発見する力・知を共有する力など「価値ある力や経験」を蓄積することが授業の目標となります。

3. 成績評価の方法および基準

演習・実習形式の授業ですから、担当した際の報告、レポートの内容、議論をする際の発言等で成績を付けます。

4. 教科書・参考文献

教科書

『大学生のためのリサーチリテラシー入門：研究のための8つの力』

参考文献ではなく、テキスト(必携)とします。

5. 準備学修の内容

- ・リサーチリテラシー

- ・統計リテラシー

- ・英文読解力

- ・プレゼンテーション能力

いずれも、授業内で伝えられることは限られています。全ての課題で持ち帰り、自学自習、共同作業が必要となるはずですので。

6. その他履修上の注意事項

はじめて経験する知識や作業に触れることは、それ自体に価値があります。社会に出ればルーチンワークの方がむしろまれです。また、知識や方法は調べることができても、「経験」を検索することはできません。

したがって、何事にも積極的に取り組む、話をする、関わろうとする姿勢が必要だと考えます。そのための第一歩は、「休まない」ことです。

7. 授業内容

- 【第1回】 テーマを定めて学校と関わる1
・調査目的とテーマの設定
- 【第2回】 テーマを定めて学校と関わる2
参与観察と非参与観察 観察法を行うにあたって
調査の準備
- 【第3回】 テーマを定めて学校と関わる3
企画書を作成する
記録のしかた
- 【第4回】 テーマを定めて学校と関わる4
ICT技術と記録
- 【第5回】 テーマを定めて学校と関わる5
観察法の発表と表現手法について
- 【第6回】 観察法実習1
非参与観察を実際に行ってみる
- 【第7回】 観察法実習2
フォトエッセイによる発表
- 【第8回】 非参与観察の一形態としての「授業観察」
- 【第9回】 観察法実習3
授業観察の実際
- 【第10回】 観察法実習4
授業観察をまとめる
- 【第11回】 観察法実習5
授業観察の発表1
- 【第12回】 観察法実習5
授業観察の発表2
- 【第13回】 観察法実習5
授業観察の発表3
- 【第14回】 参与観察とは何か?
- 【第15回】 まとめと振り返り

